

3. 奈良県十津川村歴史資料調査

渡邊 幸奈

1. 概要

京都府立大学文学部歴史学科文化情報学研究室では、2017年度から奈良県十津川村の村史編さん事業の一環として、十津川村および関係地域・団体などに伝来した古文書や歴史資料の調査・整理を実施している。これらの調査成果は、現在まですでに『十津川村史 歴史資料編』近世1・2、近現代編として刊行されている。十津川村史編さん事業には、本学から東昇（教員）と水谷友紀（共同研究員）、ほか多数の院生、学生が歴史部会の調査に参加している。2024年度調査は、十津川村教育委員会事務局学芸員の大向翔太氏、大杉綾花氏、真下卓也氏のご協力のもと実施した。また、本年度の調査成果は、2025年3月刊行予定の資料編（古代中世・文化財）、および本文編などに活用される。

2. 丸田家文書調査

本調査は、大阪府豊中市日本民家集落博物館において実施した。同博物館には十津川村込之上から旧丸田家住宅が移築されており、本調査では同家の土蔵に収蔵された丸田家文書のうち、近世のものを中心に撮影をおこなった。丸田家は天保期（1830～1843）以降、込之上村の庄屋を勤めており、村内において指導的立場にあった（日本民家集落博物館 1980）。

調査日程 2024年7月6日

調査参加者 東昇（教員）、渡邊幸奈（博士前期課程）、小島慧音、渡部凌空（以上4回生）、岩間智哉、山蔭晴人（以上3回生）、上武恒介（2回生）

丸田家文書の一部はすでにマイクロフィルム・コピーが作成されており、本調査では分類F（治安・救恤）、G（交通）、I（林業）、J（鉱業）、K（家）、R（明治維新）のうち、未撮影史料199点の撮影をおこなった。また、目録未採取である分類W、X、Y、Zの収納袋55点の上書を確認し、目録化した。分類W～Zは、酒拝借証文、勘定書付類、金子借用証文、山林売渡証文、書状類が中心である（日本民家集落博物館 1987）。調査終了後、十津川村教育委員会が分類L、Oが収納された箱4、および分類Y、Zの一部が収納された箱11を借用した。

3. 聖護院文書調査

本調査は、京都市左京区の聖護院門跡において実施した。近世における聖護院門跡は本山派修験の本寺として全国の修験者を統轄しており、同寺に伝来した聖護院文書には御日録や取次方日記、書記留のような基本史料のほか、本山派修験の様子を伝える修験方日記や御補任留

などが豊富に含まれている。また、十津川村が修験道の聖地・大峰山脈の霊山麓に広がっていること、享保12年（1727）、玉置山に鎮座する玉置神社の別当が聖護院門跡支配下となったことから、同文書群には近世十津川郷や玉置山に関する文書も含まれている。

調査日程 2024年7月22日

調査参加者 東昇（教員）、渡邊幸奈（博士前期課程）、小島慧音、島村朱音、渡部凌空（以上4回生）、岩間智哉、山蔭晴人（以上3回生）、上武恒介（2回生）、有賀陽平（共同研究員）

本調査では、先に挙げた日記類、書記留などのほか、金銀出入帳や大峰山での修行、門跡入峰に関する史料67点の撮影をおこなった。ただし、日記類、書記留に関しては内容を確認の上、十津川郷や玉置山に関連するとみられる箇所、および参考として近隣の洞川村（天川村洞川）などに関する箇所を部分的に撮影した。本調査の成果によって、近世における聖護院門跡や本山派修験の動向を明らかにできるだけでなく、これまで進められてきた村史編さん事業の調査成果と合わせて分析することで、十津川郷や玉置山が修験道とどのように関わっていたのかを今後さらに具体的に解明していくことが期待される。

4. 十津川村歴史資料調査

本調査は、十津川村役場村史編さん室において実施した。

調査日程 2024年8月19～22日

調査参加者 東昇（教員）、渡邊幸奈（博士前期課程）、小島慧音、渡部凌空（以上4回生）、上武恒介（2回生）

本調査では、日本民家集落博物館より借用した丸田家文書箱4、箱11のうち、分類Lの332点、分類Oの303点、計635点の撮影をおこなった。分類Lは丸田家の営業に関する史料603点が一括されており、その中でさらに営業一般・酒造・製紙・材木・米穀・製炭の6項目に分類されている。とりわけ酒造関係の史料が253点と最も多く、年代が明らかなもので寛政11年（1799）～明治3年（1870）の史料を含む。林業が主要産業であった近世十津川郷において、郷の人々が林業のほかにどのような生業を営んでいたかを知る上で注目される。分類Oは土地売買に関する史料など684点が一括されており、本調査で撮影した303点のうち、年代が明らかなもので承応2年（1653）の「永代売渡申ひろい谷山証文」が最も古く、明治25年（1892）までの山林売買証文を豊富に残す。そのほか、分類Oには山論に関する史料も含まれており、特に享保年間（1716～1735）、玉置山別当と込之上村ほか16人のものが大谷山をめぐる争った一件に関する「御尋二付申上候口上書」（丸田家文書O-110-18）、「乍恐書付を以奉申上候」（O-110-19）からは村方の主張がわかり、大変興味深い。

以上のような資料調査のほか、本調査では十津川村武蔵集落や込之上丸田家墓地、近世に十津川郷下組によって小原に設置された宝蔵などの巡見をおこなった。

参考文献

日本民家集落博物館 1980『十津川郷の丸田家文書の報告』（日本民家集落博物館彙報V）

日本民家集落博物館 1987『丸田家文書にみる十津川の歴史とくらし』

編集後記

余裕をもって仕事に取り組みたい。一つ仕事が終わる度に今度こそはと思うが、今回も果たせなかった。文字通りバタバタ。年末から長い師走が続いている。一つの救いは、春からのフィールドワークに始まり、冬の集報に終わるこの一連の営みが、10号を越え、府大歴史学科の伝統として根付きつつあること。フィールドをご提供いただいた関係各所のご厚意に深く感謝申し上げたい。

なお本書の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの合同実習メニューとして学部生がAdobe社のInDesignを利用しておこなっているが、もちろんそのままでは本にはならない。一書にまとめるにあたって力を尽くしてくれた大学院生の頑張りにも深く感謝したい。(い)

京都府立大学文学部歴史学科

フィールド調査集報 第11号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5

発行日 2025年3月31日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町38-2
